

町政覚え書き

第35回 町長に就任40カ月 高齢者福祉政策を考える
～認知症対応グループホーム・介護特別養護老人ホーム・
ショートステイの整備に向け全力～

大河原町長 伊勢 敏

1982年秋、視察で初めて渡米、首都ワシントンでの最終日のこと。視察団の一人が急病(尿路結石)に罹り、付き添いの私と団体行動から離れた。翌日退院、ニューヨークで団に合流。1週間後、退院時に頂いた紹介状を持参しサンフランシスコの病院に行った。待合室の前を通る女性看護師を呼び止めて聞いてみた。フリーピンから出稼ぎに来ている、と教えてくれた。一カ月ほど前のテレビ報道に登場した、日本の介護現場で働くフリーピン女性は入所者にモテモテのようだった。日本も、外国人労働者にお世話になる時代がやってきた。一方、高齢者介護施設を整備するため、宮城県内のある自治体が行った社会福祉法人の公募に対し、応募した法人は自治体と一旦は協定したものの、ごく最近、介護士の確保を理由に協定を取り消した、と聞き及んでいる。介護士に限らず、本町が行う保育士の募集、中核病院が行う看護師の募集、いずれも確保することにおいて難澁を極めていく実態が続いている。

さて、町長就任後、40カ月が経過した。重要公約の「町立の介護特別養護老人ホーム」についてご説明申し上げたい。平成26年に行った高齢者に関する実態調査から、認知症が高齢者の急増、また、常時介護が必要になった場合の半数以上が在宅介護を希望する考えであることが判明した。平成27年3月に、これらを踏まえた第6期介護保険事業計画を策定、大河原町議会全員協議会で説明申し上げた。計画実現のため、左記I及びIIを整備する事業者社会福祉法人を募集することとした。I 「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)」を平成28年度に開設(定員18人) II 入所者を町民に限定できる「地域密着型特別養護老人ホーム」を平成29年度に開設(定員29人)

この時点で町立ではなく社会福祉法人による施設整備方針に転換した理由は、平成26年11月に策定した「新行財政改革大綱」で示された歳出の抑制と民間委託の推進などである。その背景には、町長就任後、世代交流いきいきプラザ・橋本交流センターの新築、金ヶ瀬中学校体育館・西原集会所の建替が相次ぎ、また、今後の給食センター、中央公民館、桜保育所、柴田斎苑など多くの老朽施設の建て替え等に莫大な財政需要が控えていること、などがある。I は応募した事業者が本年4月1日に開業予定だが、II は応募がなかったことから、平成27年10月の議会に提案した補正予算が可決され、次のIIIを募集することとした。III 在宅介護の支援に寄与する「ショートステイ」(IIに併設する場合、最大20床4270万円の町単独の補助)

IIIのショートステイを併設することは、IIの施設の規模を拡大し事業のスケールメリットを生むとともに、「家族による在宅介護への支援」という私の公約を実現することにもなる。IとIIIは、介護需要の実態に見合った高齢者福祉施策を推進するためのものであり、引き続き、IIとIIIの募集に努める。また、全国的な課題となつていく介護職員の確保に向け、国と県に対し政策要望運動を強化する所存である。【2月22日】

14歳の志 大河原中学校「第53回立志式」

大河原中学校の伝統行事「第53回立志式」が、2月4日、えずこホールで行われました。立志式を迎えたのは2年生214人で、立志生を代表して7人が、ステージ上でそれぞれの将来の夢を発表しました。また、各クラスの「誓い」を「挑戦」「友情」「笑顔」「飛躍」「感謝」「希望」「努力」と漢字二文字に表し、クラスごとに実践目標を述べたほか、立志生全員の記念合唱では「あなたに会えて…」を熱唱。一人ひとりの思いが込められた歌声に、来場した保護者の中には涙を浮かべる姿も見られました。立志生たちは、今まで自分たちを育ててくれた多くの人たちへの感謝の心と、自分の将来への決意や目標を明らかにして、大人への自覚を深めていました。



▲趣味や職場体験を通して、将来の夢を抱いたなどの所感発表を行う立志生代表7人。



▲立志生の共同制作により完成された、桜土手のモザイクアート。

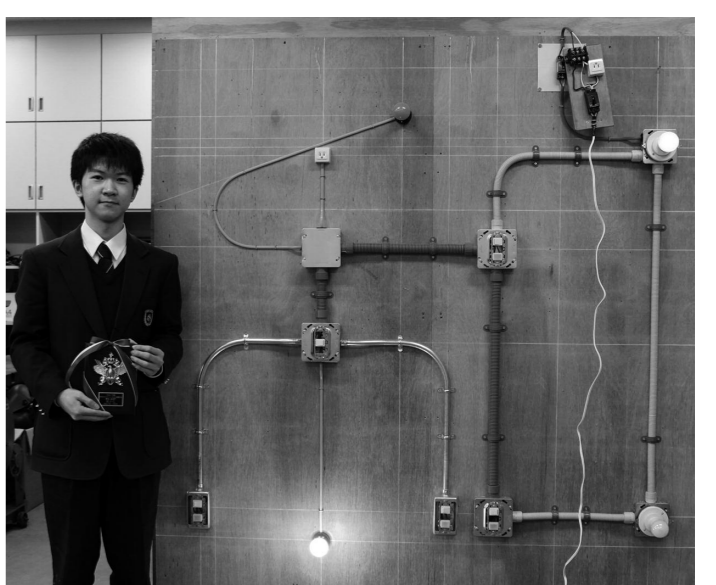
宮城県大会電気工事部門第2位

平成27年度 第14回「高校生ものづくりコンテスト」

大河原町在住で白石工業高等学校電気科2年生の横山和樹さん(金ヶ瀬5区)が、平成27年11月6日に行われた、第14回「高校生ものづくりコンテスト」宮城県大会電気工事部門で第2位の成績を収め、東北大会への切符を手にしました。

横山さんが出場した「電気工事部門」は垂直パネルに競技規則に従い、「施工図」と「施工条件」に基づいた電気配線工事を行うというもので、即戦力で企業に働ける程の高いレベルの課題となっています。審査は、速さと正確さ、効率の良さやバランスなどで採点され、第1位の他校の3年生とはわずかな時間の差で2位となったものの、得点は100点満点中97点で同得点でした。「小さい頃からものづくりが好きだった」という横山さんは、放課後遅くまで練習に励み、日々の努力が今回の成績に繋がりました。

今年7月に宮城県代表として出場する東北大会でも、活躍が期待されます。



▲宮城県大会で第2位を受賞した作品と横山さん。大会ごとに課題が異なり、今大会では「和」の文字を模った電気配線工事が課題となりました。



「まちの本棚」 駅前図書館今月の新刊

一般/■戦国武将「変わり兜」大全集 小和田 哲男/監修 【双葉社】 戦いが日常的、かつ大規模になった戦国時代、戦場で目立つ必要があった武将たちの、勇壮かつ奇抜なデザイン「変わり兜」を写真で紹介するほか、甲冑の変遷史、甲冑が語る戦国武将などを収録。 小説/■キッチン戦争 樋口直哉/著 【講談社】 若き女性料理人・滝沢葉月は、高名なフランス料理のコンクールに出場することに。「誰のために、何のために、あなたは創るのか」という問いの先に向かつて、葉月の闘いが始まる。『小説現代』連載を単行本化。 児童/■築地市場 モリナガヨウ/作絵 【小峰書店】 みんなが食べている魚はどこからやってくる? 東京の築地市場に、トラックで魚がとどくところや、荷物が運びだされるところ、マグロのせり、仲卸の店の仕事などを、イラストで紹介します。市場ではたらく人の様子や、いろいろな運搬車も知ることが出来ます。 児童/■ハルと歩いた 西田俊也/作 【徳間書店】 1年前に東京から引越してきた陽太は、奈良で小学校の卒業式をむかえた。仲のいい友だちもまだいない。川べでぼんやりしていると、とつぜんホームレスの男からフレンチブルドッグをもらってしまった。犬といっしょに奈良の町を歩く日々が始まり、犬のおかげでさまざまな出会いがある。 絵本/■えほんからとびだしたオオカミ テイラー・ロフレイト/作 グレゴワール・マビール/絵 石津 ちひろ/訳 【岩崎書店】 ソーイのほんだには、いつもほんがいっぱいある。えほんがいつかゆかのおえんにおこちた。なからころがりおちてきたオオカミは、ソーイのへやにすむふとちよネコがこわくてたまらない。とかいそいでいげなくちややくれるほんをさがしてほんだをよしのぼったオオカミがめについたほんのなかへしのびこんでみると...